



大学の主人公は学生だ

●学生をダシに金もうけの理事会

日大生、教職員・OBのみなさん！ 5月冒頭の「アメフト・タックル問題」から約1か月。焦点は「悪質タックルの指示」の有無だけでなく、学生をモノのように利用し、切り捨て、責任を居直り、高い学費(経済学部初年度納入金は124万円)を巻き上げて私腹を肥やす日大理事会総体の腐敗として、誰の目にも明らかになってきています。

内田正人・アメフト部前監督……アメフト界からは永久追放になりましたが、日大理事は辞めても、保健体育審議会事務局長&人事部長として、いまだ予算と人事権を握っています。売上70億円の(株)日本大学事業部取締役も変わらず。日大生を食い物にビジネス化しています。

田中英寿理事長……収賄と暴力団癒着でJOC(日本オ

リンピック委員会)副会長辞任に追い込まれる。いまだに姿を現さず、雲隠れの逃亡を続けています。

こんな腐った理事会は、全員今すぐやめさせよう！

日大・田中英寿理事長(写真右)と
実質No.2の内田正人・前監督(同左)



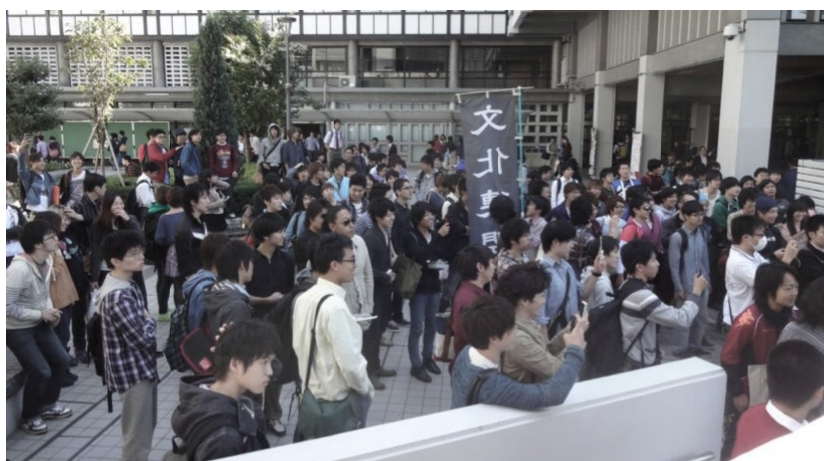
全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

【メール】mail_cn001@zengakuren.jp 【HP】<http://www.zengakuren.jp/>

「大学の役割は民間企業と同じだ。原材料を仕入れ、加工して製品に仕上げ、卒業証書という保証書をつけ企業へ出す。これが産学連携だ」

高橋宏・首都大学東京元理事長(右)の、NPO団体「21世紀大学経営協会」総会(2005年5月)での発言。高橋宏は日本郵船の元副社長。



●「教育の民営化」と国立大法人化

教育と人間成長のためにあるべき大学が、なぜここまで墮落し、学生をないがしろにしているのでしょうか？どこまで私たち学生の誇りをおとしめるのでしょうか？いったい大学は誰のため、何のためにあるのでしょうか？

上の発言を見てください。今の経済界や大学幹部は、学生を「原材料」「製品」、教育を「加工」としか考えていません。カネもうけこそがすべて——これこそ、田中理事長をはじめとした今の日大幹部の姿そのものです。

カネもうけ至上主義＝「教育の民営化」は、私立大に限られません。国立大は04年に法人化されて予算を削減され、政府や企業の言いなりの研究しかできなくなりました。そして、学生・保護者は高い学費に苦しめられ、主体性も自由もすべて奪われようとしています。

●キャンパスから学生の反乱を！

①京都大学＝立て看板攻防

私たち学生には力がないのか？ そんなことはありません。京大では、大学当局が一方的に決めた「キャンパスでの立て看板禁止」に抗して、学生が闘い続けています。今年4月27日には、構内で大集会を行いました(写真右上)。

②法政大学＝処分・逮捕のりこえて

法大でも、「ビラ一枚まけない」キャンパスの監獄のような現実に対し、学生が実力で反撃しています(写真右中は、12年10月、大学祭規制に反対する1000人集会)。

③戦争絶対反対＝2015年国会前闘争

学生には戦争を止める力もあります。3年前には、安保戦争法の強行採決に反対し、学生が大挙して国会前車道を占拠(写真右下)。15年10月27日には、京大で戦争絶対反対のバリケードストライキを闘いました。

④そして、団結した日大生の登場を…

ダメな理事会、公文書を改ざんしても開き直る安倍政権(上新聞記事)…、この現実を変えよう。50年前に10万日大生は立ち上がり、古田・日大会頭(当時) 全学連Twitterに団体交渉で退陣を約束させました(オモテ写真)。団結した学生の力を甦らせ、日大生こそ歴史の主人公に！ (6月6日)

